

ホクコーファーストオリゼプリンススピノ粒剤6

■種類名：スピノサド・フィプロニル・プロベナゾール粒剤
■有効成分：スピノサド----- 0.75%
 フィプロニル----- 0.60%
 プロベナゾール----- 20.0%
■化管法指定物質：プロベナゾール [第1種] ----- 20.0%

■登録番号：第23736号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2015.11.11
■性状：淡褐色細粒
■有効年限：3年
■包装：10kg×1袋

【特長】

- 抵抗性誘導型殺菌剤Dr.オリゼをは種時処理処方にしたファーストオリゼに、フィプロニルとスピノサドを組み合わせた殺虫殺菌剤。
- 異なる殺虫メカニズムのフィプロニルとスピノサドを組み合わせたことにより、チョウ目害虫のフタオビコヤガや、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシに対する優れた効果を示す。
- スピノサドは天然物由来の成分であり、多くの「特別栽培米」で化学合成農薬の使用回数にカウントしない有効成分として認められている。(一部の地方自治体によって使用基準が異なる場合があるので、使用前に関係機関に確認すること)

【適用内容】(2022年10月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピノサドを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ	育苗箱 (30x60x3cm、 使用土壌約5%) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土に均一に混和する。	1回	1回	2回以内 (移植時 までの処理は1回 以内)
	イネミズゾウムシ フタオビコヤガ イナゴ類		(は種時 (覆土前))		育苗箱の床土に均一に散布する。			

【効果・薬害等の注意】

- 本剤を育苗床土に混和する場合には薬害を生じる場合があるので、下記の注意事項を遵守すること。
 - ◆ 山土、畑土等を使用する場合は、十分に乾燥させてから使用すること。
 - ◆ 粒剤を混和した床土は高温多湿での保管をさけ、すみやかに使用すること。
 - ◆ 粒剤が破砕されるような過度な混和はさけること。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予想される場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。